

講義名	対2)経営学入門(商学部・経済学部)			授業形態	
担当教員	森口 文博	開講期・曜日・時間	前期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング	

主題と概要

- ・本学での学びの土台となる「経営学」の基本的な考え方や理論を中心に解説します。
- ・本講義で習得した経営学の知識をふまえて、自身がどのような科目をより深く学んでいくべきかを考えるための機会を提供します。
- ・また、本講義では簡単な企業の事例分析を行い、主体的に考え、解決する基礎的な力を鍛えます。

到達目標

- ・経営学がどのような学問であるかをあらづかみし、さらにどのような専門性を高めたいかを考えられるようになる。
- ・経営学の基礎知識を習得し、代表的な理論やフレームワークが説明できるようになる。
- ・経営学の観点から世の中で起きている企業活動にまつわる話題を自分なりに分析し、意見が言えるようになる。

提出課題

- ・定期的に小テストまたは小課題に取り組んでいただきます。
- ・予習・復習を行い、講義で学んだことを確実に自分で活用できるように努めてください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- ・小テストまたは小課題については、講義の中で回答と解説を行います。
- ・また、受講生からの質問をメールにて受け付けます。
- ・受け付けたメールについて、他の受講生にもフィードバックした方がよいと判断した場合は、次回の講義の中で紹介し、解説します。

評価の基準

- ・期末試験の成績：60%
 - ・小テスト(または小課題)20%
 - ・講義への積極的な参加・貢献20%
- オンデマンドでの受講者は、オンラインツール等を通じた書き込みやメールでの問い合わせなどを通じて、 を評価します。

履修にあたっての注意・助言他

- ・本講義は、経営学の全体像を学ぶ基礎的な科目となります。以後の専門科目を学ぶ上での根幹をなしますので、しっかり習得しましょう。
- ・自身が疑問に思うことは、他の受講生も疑問に思っている可能性が高いです。
- ・よって、疑問点はそのままにせず、積極的に質問・発言してください。積極的な講義中の発言・貢献を重視します。
- ・他の受講生の迷惑となる行為は退出を命じることがありますので、留意ください。

教科書

.1からの経営学.	加護野忠男/吉村典久	碩学舎	2460	9784502375217
-----------	------------	-----	------	---------------

参考文献

--	--	--	--	--

その他

- ・毎回、講師作成のレジュメをUKA Portalにアップロードします。
- ・教科書をベースに講義を進めますが、教科書だけではカバーしきれない点についてレジュメや参考文献を用いて補足・紹介します。
- ・その他参考となる図書等は、適宜講義の中で紹介します。

授業計画

1. イントロダクション / 講義の全体像・評価方法など
2. 企業経営 / 経営学の全体像 / 経営学という分野の地図を描く (教科書第1章・2章)
3. 企業と会社 / 株式会社の仕組み (教科書第3章)
4. 企業とインフラ / 経営資源としてのカネ・ヒト (教科書第4章)
5. 企業とアウトプット / 経営戦略の基本原則 (教科書第5章)
6. 競争戦略のマネジメント (1) / 基本的な考え方 (教科書第6章)
7. 競争戦略のマネジメント (2) / 違いをつくる3つの基本戦略と仕組みの競争 (教科書第7章)
8. 多角化戦略のマネジメント / 事業範囲拡大の論理 (教科書第8章)
9. 国際化のマネジメント / なぜ世界に目を向けるのか (教科書第9章)
10. マクロ組織のマネジメント / 組織設計と資源配分 (教科書第10章)
11. ミクロ組織のマネジメント / 組織行動論 (教科書第11章)
12. 人的資源のマネジメント / 組織と従業員の視点からヒトを考える (教科書第12章)
13. 経営者の広がり / ファミリービジネス、非営利組織 (教科書第13章・14章)
14. ビジネス倫理 / 企業の社会的責任 (CSR) から共有価値の創造 (CSV)へ
15. 講義全体の振り返り・まとめ

- ・本講義は対面にて実施します。
- ・受講生とのインタラクションを文えながら今回の講義のキーワードにまつわる話題を提供します。
- ・講義の進捗は、以下のような構成を予定しています。

前半：講師が今回の講義のテーマに関する説明・解説を行う。
 後半：個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただき、演習結果の共有とワークの解説を行う。

- 【新型コロナウイルス蔓延に伴い、オンデマンド講義を希望する学生について】
- ・本学の運営方針に基づき、オンデマンドでの受講を希望する学生には、対面クラスで収録した講義動画を後日配信します。
- ・講義の後半で行う演習(ブラクティス)は、個人ワークとして取り組んでいただきます。
- ・演習後、質問・疑問がある場合はメールまたはオンラインツールを通じて問い合わせをいただき、直接返信または次回の講義で取り上げて回答をします。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習：各回の講義に該当する章を読んで内容をあらかじめ調べておく。疑問点などを整理しておく。
- ・復習：各回の講義で取り扱ったテーマを自身の言葉で説明できるように講義資料を振り返りまとめる。また、演習(ブラクティス)で取り組んだ内容についても振り返りまとめる。

講義と合わせて、上記の予習・復習を反復することで学習効果が高まりますので、ぜひ実践してください。
 予習・復習のバランスは各自受講生に委ねますが、合わせて4時間を目安とします。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・本講義は、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につける講義である。
- ・本学での学びの土台をなす講義であり、経営学の全体像を把握(地図を描く)すること位置づけとなります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・講義内での積極的な発言やディスカッションを期待しています。
- ・講義の後半には、個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただきますので、演習した内容を全員に共有いただき、その内容を受講生とともに考え、受講者との対話を重視しながら講義を実施します。
- ・その他オンラインツールを使用する場合は、講義内で案内します。

実務経験の有無及び活用

- ・政府系金融機関での9年間の融資課外・各種ソリューション提案の実務経験がありますので、ビジネス現場の実態も交えた講義展開ができます。
- ・大学での7年間の産学連携支援、知的財産管理業務の経験があり、技術シーズがビジネスとして上市されるプロセスに携わった経験談を交えた講義展開ができます。

備考

- ・質問・疑問点等の問い合わせはメール(fumihiro.moriguchi@red.ums.ac.jp)に送付ください。
- ・また、講義中以外でも不明点や質問があれば、上記のメールアドレスにて受け付けます。

その他

- ・毎回、講師作成のレジュメをUKA Portalにアップロードします。
- ・教科書をベースに講義を進めますが、教科書だけではカバーしきれない点についてレジュメや参考文献を用いて補足・紹介します。
- ・その他参考となる図書等は、適宜講義の中で紹介します。

授業計画

1. イントロダクション / 講義の全体像・評価方法など
2. 企業経営 / 経営学の全体像 / 経営学という分野の地図を描く (教科書第1章・2章)
3. 企業と会社 / 株式会社の仕組み (教科書第3章)
4. 企業とインフラ / 経営資源としてのカネ・ヒト (教科書第4章)
5. 企業とアウトプット / 経営戦略の基本原則 (教科書第5章)
6. 競争戦略のマネジメント (1) / 基本的な考え方 (教科書第6章)
7. 競争戦略のマネジメント (2) / 違いをつくる3つの基本戦略と仕組みの競争 (教科書第7章)
8. 多角化戦略のマネジメント / 事業範囲拡大の論理 (教科書第8章)
9. 国際化のマネジメント / なぜ世界に目を向けるのか (教科書第9章)
10. マクロ組織のマネジメント / 組織設計と資源配分 (教科書第10章)
11. ミクロ組織のマネジメント / 組織行動論 (教科書第11章)
12. 人的資源のマネジメント / 組織と従業員の視点からヒトを考える (教科書第12章)
13. 経営者の広がり / ファミリービジネス、非営利組織 (教科書第13章・14章)
14. ビジネス倫理 / 企業の社会的責任 (CSR) から共有価値の創造 (CSV)へ
15. 講義全体の振り返り・まとめ

- ・本講義は対面にて実施します。
- ・受講生とのインタラクションを文えながら今回の講義のキーワードにまつわる話題を提供します。
- ・講義の進捗は、以下のような構成を予定しています。

前半：講師が今回の講義のテーマに関する説明・解説を行う。
 後半：個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただき、演習結果の共有とワークの解説を行う。

- 【新型コロナウイルス蔓延に伴い、オンデマンド講義を希望する学生について】
- ・本学の運営方針に基づき、オンデマンドでの受講を希望する学生には、対面クラスで収録した講義動画を後日配信します。
- ・講義の後半で行う演習(ブラクティス)は、個人ワークとして取り組んでいただきます。
- ・演習後、質問・疑問がある場合はメールまたはオンラインツールを通じて問い合わせをいただき、直接返信または次回の講義で取り上げて回答をします。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習：各回の講義に該当する章を読んで内容をあらかじめ調べておく。疑問点などを整理しておく。
- ・復習：各回の講義で取り扱ったテーマを自身の言葉で説明できるように講義資料を振り返りまとめる。また、演習(ブラクティス)で取り組んだ内容についても振り返りまとめる。

講義と合わせて、上記の予習・復習を反復することで学習効果が高まりますので、ぜひ実践してください。
 予習・復習のバランスは各自受講生に委ねますが、合わせて4時間を目安とします。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・本講義は、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につける講義である。
- ・本学での学びの土台をなす講義であり、経営学の全体像を把握(地図を描く)すること位置づけとなります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・講義内での積極的な発言やディスカッションを期待しています。
- ・講義の後半には、個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただきますので、演習した内容を全員に共有いただき、その内容を受講生とともに考え、受講者との対話を重視しながら講義を実施します。
- ・その他オンラインツールを使用する場合は、講義内で案内します。

実務経験の有無及び活用

- ・政府系金融機関での9年間の融資課外・各種ソリューション提案の実務経験がありますので、ビジネス現場の実態も交えた講義展開ができます。
- ・大学での7年間の産学連携支援、知的財産管理業務の経験があり、技術シーズがビジネスとして上市されるプロセスに携わった経験談を交えた講義展開ができます。

備考

- ・質問・疑問点等の問い合わせはメール(fumihiro.moriguchi@red.ums.ac.jp)に送付ください。
- ・また、講義中以外でも不明点や質問があれば、上記のメールアドレスにて受け付けます。

その他

- ・毎回、講師作成のレジュメをUKA Portalにアップロードします。
- ・教科書をベースに講義を進めますが、教科書だけではカバーしきれない点についてレジュメや参考文献を用いて補足・紹介します。
- ・その他参考となる図書等は、適宜講義の中で紹介します。

授業計画

1. イントロダクション / 講義の全体像・評価方法など
2. 企業経営 / 経営学の全体像 / 経営学という分野の地図を描く (教科書第1章・2章)
3. 企業と会社 / 株式会社の仕組み (教科書第3章)
4. 企業とインフラ / 経営資源としてのカネ・ヒト (教科書第4章)
5. 企業とアウトプット / 経営戦略の基本原則 (教科書第5章)
6. 競争戦略のマネジメント (1) / 基本的な考え方 (教科書第6章)
7. 競争戦略のマネジメント (2) / 違いをつくる3つの基本戦略と仕組みの競争 (教科書第7章)
8. 多角化戦略のマネジメント / 事業範囲拡大の論理 (教科書第8章)
9. 国際化のマネジメント / なぜ世界に目を向けるのか (教科書第9章)
10. マクロ組織のマネジメント / 組織設計と資源配分 (教科書第10章)
11. ミクロ組織のマネジメント / 組織行動論 (教科書第11章)
12. 人的資源のマネジメント / 組織と従業員の視点からヒトを考える (教科書第12章)
13. 経営者の広がり / ファミリービジネス、非営利組織 (教科書第13章・14章)
14. ビジネス倫理 / 企業の社会的責任 (CSR) から共有価値の創造 (CSV)へ
15. 講義全体の振り返り・まとめ

- ・本講義は対面にて実施します。
- ・受講生とのインタラクションを文えながら今回の講義のキーワードにまつわる話題を提供します。
- ・講義の進捗は、以下のような構成を予定しています。

前半：講師が今回の講義のテーマに関する説明・解説を行う。
 後半：個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただき、演習結果の共有とワークの解説を行う。

- 【新型コロナウイルス蔓延に伴い、オンデマンド講義を希望する学生について】
- ・本学の運営方針に基づき、オンデマンドでの受講を希望する学生には、対面クラスで収録した講義動画を後日配信します。
- ・講義の後半で行う演習(ブラクティス)は、個人ワークとして取り組んでいただきます。
- ・演習後、質問・疑問がある場合はメールまたはオンラインツールを通じて問い合わせをいただき、直接返信または次回の講義で取り上げて回答をします。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習：各回の講義に該当する章を読んで内容をあらかじめ調べておく。疑問点などを整理しておく。
- ・復習：各回の講義で取り扱ったテーマを自身の言葉で説明できるように講義資料を振り返りまとめる。また、演習(ブラクティス)で取り組んだ内容についても振り返りまとめる。

講義と合わせて、上記の予習・復習を反復することで学習効果が高まりますので、ぜひ実践してください。
 予習・復習のバランスは各自受講生に委ねますが、合わせて4時間を目安とします。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・本講義は、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につける講義である。
- ・本学での学びの土台をなす講義であり、経営学の全体像を把握(地図を描く)すること位置づけとなります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・講義内での積極的な発言やディスカッションを期待しています。
- ・講義の後半には、個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただきますので、演習した内容を全員に共有いただき、その内容を受講生とともに考え、受講者との対話を重視しながら講義を実施します。
- ・その他オンラインツールを使用する場合は、講義内で案内します。

実務経験の有無及び活用

- ・政府系金融機関での9年間の融資課外・各種ソリューション提案の実務経験がありますので、ビジネス現場の実態も交えた講義展開ができます。
- ・大学での7年間の産学連携支援、知的財産管理業務の経験があり、技術シーズがビジネスとして上市されるプロセスに携わった経験談を交えた講義展開ができます。

備考

- ・質問・疑問点等の問い合わせはメール(fumihiro.moriguchi@red.ums.ac.jp)に送付ください。
- ・また、講義中以外でも不明点や質問があれば、上記のメールアドレスにて受け付けます。

その他

- ・毎回、講師作成のレジュメをUKA Portalにアップロードします。
- ・教科書をベースに講義を進めますが、教科書だけではカバーしきれない点についてレジュメや参考文献を用いて補足・紹介します。
- ・その他参考となる図書等は、適宜講義の中で紹介します。

授業計画

1. イントロダクション / 講義の全体像・評価方法など
2. 企業経営 / 経営学の全体像 / 経営学という分野の地図を描く (教科書第1章・2章)
3. 企業と会社 / 株式会社の仕組み (教科書第3章)
4. 企業とインフラ / 経営資源としてのカネ・ヒト (教科書第4章)
5. 企業とアウトプット / 経営戦略の基本原則 (教科書第5章)
6. 競争戦略のマネジメント (1) / 基本的な考え方 (教科書第6章)
7. 競争戦略のマネジメント (2) / 違いをつくる3つの基本戦略と仕組みの競争 (教科書第7章)
8. 多角化戦略のマネジメント / 事業範囲拡大の論理 (教科書第8章)
9. 国際化のマネジメント / なぜ世界に目を向けるのか (教科書第9章)
10. マクロ組織のマネジメント / 組織設計と資源配分 (教科書第10章)
11. ミクロ組織のマネジメント / 組織行動論 (教科書第11章)
12. 人的資源のマネジメント / 組織と従業員の視点からヒトを考える (教科書第12章)
13. 経営者の広がり / ファミリービジネス、非営利組織 (教科書第13章・14章)
14. ビジネス倫理 / 企業の社会的責任 (CSR) から共有価値の創造 (CSV)へ
15. 講義全体の振り返り・まとめ

- ・本講義は対面にて実施します。
- ・受講生とのインタラクションを文えながら今回の講義のキーワードにまつわる話題を提供します。
- ・講義の進捗は、以下のような構成を予定しています。

前半：講師が今回の講義のテーマに関する説明・解説を行う。
 後半：個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただき、演習結果の共有とワークの解説を行う。

- 【新型コロナウイルス蔓延に伴い、オンデマンド講義を希望する学生について】
- ・本学の運営方針に基づき、オンデマンドでの受講を希望する学生には、対面クラスで収録した講義動画を後日配信します。
- ・講義の後半で行う演習(ブラクティス)は、個人ワークとして取り組んでいただきます。
- ・演習後、質問・疑問がある場合はメールまたはオンラインツールを通じて問い合わせをいただき、直接返信または次回の講義で取り上げて回答をします。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習：各回の講義に該当する章を読んで内容をあらかじめ調べておく。疑問点などを整理しておく。
- ・復習：各回の講義で取り扱ったテーマを自身の言葉で説明できるように講義資料を振り返りまとめる。また、演習(ブラクティス)で取り組んだ内容についても振り返りまとめる。

講義と合わせて、上記の予習・復習を反復することで学習効果が高まりますので、ぜひ実践してください。
 予習・復習のバランスは各自受講生に委ねますが、合わせて4時間を目安とします。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・本講義は、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につける講義である。
- ・本学での学びの土台をなす講義であり、経営学の全体像を把握(地図を描く)すること位置づけとなります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・講義内での積極的な発言やディスカッションを期待しています。
- ・講義の後半には、個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただきますので、演習した内容を全員に共有いただき、その内容を受講生とともに考え、受講者との対話を重視しながら講義を実施します。
- ・その他オンラインツールを使用する場合は、講義内で案内します。

実務経験の有無及び活用

- ・政府系金融機関での9年間の融資課外・各種ソリューション提案の実務経験がありますので、ビジネス現場の実態も交えた講義展開ができます。
- ・大学での7年間の産学連携支援、知的財産管理業務の経験があり、技術シーズがビジネスとして上市されるプロセスに携わった経験談を交えた講義展開ができます。

備考

- ・質問・疑問点等の問い合わせはメール(fumihiro.moriguchi@red.ums.ac.jp)に送付ください。
- ・また、講義中以外でも不明点や質問があれば、上記のメールアドレスにて受け付けます。

その他

- ・毎回、講師作成のレジュメをUKA Portalにアップロードします。
- ・教科書をベースに講義を進めますが、教科書だけではカバーしきれない点についてレジュメや参考文献を用いて補足・紹介します。
- ・その他参考となる図書等は、適宜講義の中で紹介します。

授業計画

1. イントロダクション / 講義の全体像・評価方法など
2. 企業経営 / 経営学の全体像 / 経営学という分野の地図を描く (教科書第1章・2章)
3. 企業と会社 / 株式会社の仕組み (教科書第3章)
4. 企業とインフラ / 経営資源としてのカネ・ヒト (教科書第4章)
5. 企業とアウトプット / 経営戦略の基本原則 (教科書第5章)
6. 競争戦略のマネジメント (1) / 基本的な考え方 (教科書第6章)
7. 競争戦略のマネジメント (2) / 違いをつくる3つの基本戦略と仕組みの競争 (教科書第7章)
8. 多角化戦略のマネジメント / 事業範囲拡大の論理 (教科書第8章)
9. 国際化のマネジメント / なぜ世界に目を向けるのか (教科書第9章)
10. マクロ組織のマネジメント / 組織設計と資源配分 (教科書第10章)
11. ミクロ組織のマネジメント / 組織行動論 (教科書第11章)
12. 人的資源のマネジメント / 組織と従業員の視点からヒトを考える (教科書第12章)
13. 経営者の広がり / ファミリービジネス、非営利組織 (教科書第13章・14章)
14. ビジネス倫理 / 企業の社会的責任 (CSR) から共有価値の創造 (CSV)へ
15. 講義全体の振り返り・まとめ

- ・本講義は対面にて実施します。
- ・受講生とのインタラクションを文えながら今回の講義のキーワードにまつわる話題を提供します。
- ・講義の進捗は、以下のような構成を予定しています。

前半：講師が今回の講義のテーマに関する説明・解説を行う。
 後半：個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただき、演習結果の共有とワークの解説を行う。

- 【新型コロナウイルス蔓延に伴い、オンデマンド講義を希望する学生について】
- ・本学の運営方針に基づき、オンデマンドでの受講を希望する学生には、対面クラスで収録した講義動画を後日配信します。
- ・講義の後半で行う演習(ブラクティス)は、個人ワークとして取り組んでいただきます。
- ・演習後、質問・疑問がある場合はメールまたはオンラインツールを通じて問い合わせをいただき、直接返信または次回の講義で取り上げて回答をします。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習：各回の講義に該当する章を読んで内容をあらかじめ調べておく。疑問点などを整理しておく。
- ・復習：各回の講義で取り扱ったテーマを自身の言葉で説明できるように講義資料を振り返りまとめる。また、演習(ブラクティス)で取り組んだ内容についても振り返りまとめる。

講義と合わせて、上記の予習・復習を反復することで学習効果が高まりますので、ぜひ実践してください。
 予習・復習のバランスは各自受講生に委ねますが、合わせて4時間を目安とします。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・本講義は、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につける講義である。
- ・本学での学びの土台をなす講義であり、経営学の全体像を把握(地図を描く)すること位置づけとなります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・講義内での積極的な発言やディスカッションを期待しています。
- ・講義の後半には、個人または小グループでの簡単な演習(ブラクティス)に取り組んでいただきますので、演習した内容を全員に共有いただき、その内容を受講生とともに